

集まる機会が減ったからこそ、 “また会える場”をつくる

—— 倉曾町内会

町会長 松永さん/副会長 赤星さん

班長 西尾さん/子ども会会長 西村さん

倉曾町内会について

加入世帯数：65世帯（加入率 96%）

班数：6班（1.2班は地元中心、3～6班は社員層）

地区：楽田地区

倉曾町内会のいま

（暮らしの変化・役員）

松永さん(以下、[松])：町内会には、来た時からずっと関わっています。役員っていうのは、班長も含めて役員は何回か回って来るので、継続してやっているわけじゃないけど、みんなそんな形で関わってます。人の入れ替わりはほとんどない地域なので、最近では定年された方も増えて、高齢者が増えて、今の役員以外はほとんど70代ですね。

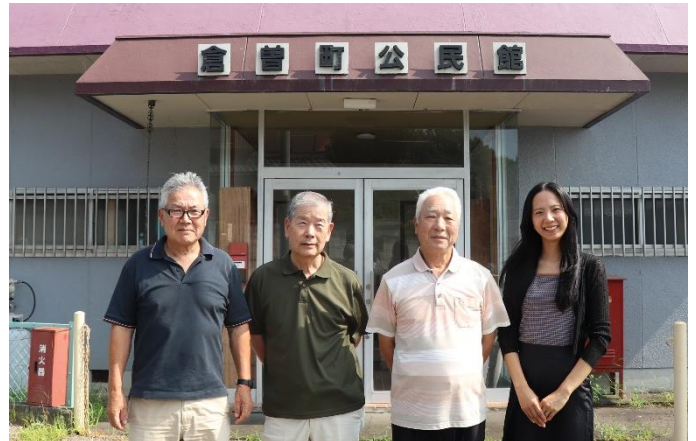
赤星さん(以下、[赤])：新しい家が建ったら、入会届を持って行ってお知らせしています。

西尾さん(以下、[尾])：本来、入会は自由ですよ。でもそれでは減っていく一方で。

赤：町内会の役員をするのは、町内会に入っていることが前提ですよ。なので、町内会には入らないけど、地域協力としてお金を出すのをOKにすることを総会にかけて、了承が得られたので、今年度からはそういう運用にしています。一方で、そこで絶対と言ってしまうと、訴えられることもあるので、あくまでも、任意としています。西尾さんがそういう法律的なところは詳しいのでお願いしました。

松：こういう風に、しゃべりやすい人に相談できたり、話せる相手がいるっていうのは、心強いですね。

「町内会って必要？」。そんな声が出やすい今、倉曾町内会では顔の見える関係づくりのため、“集まる場”をつくり直しています。祭りの参加がなくなった後に始まったのは、みんなが作品を持ち寄る展示会と、月1回のモルック。運営側と参加する側、それぞれの思いを伺いました。



左から、松永さん、西尾さん、赤星さん、西村さん

もう一度、集まる場をつくり直す

松：約10年前は大縣神社の祭りに町内として参加していて、皆が集まる場がありましたが、祭りに参加しなくなってから集まる機会がなく、みんなでワイワイできる場所を作るため、去年の町会長の赤星さんが、展示会とモルック会を行いました。それをリスペクトして、今年も月1回モルック会を開催しています。

赤：昔、総会の後に懇親会をやっていた時はみんな参加していたんです。でも今は高齢化で、町内で挨拶できない、外に出てこない人がいるので、そういう人と交流したいと思ったのがきっかけです。町内会で何をするか考えた時に、趣味で作ったものを集めて展示会をしようと考えました。



参加55人・作品177点。作品が会話のきっかけに

展示会で見た、地域の宝

赤：展示作品は、意外に177点も集まって、子どもたちにも、読書感想文や習字などを出展してもらいました。展示会を初めてやって、町内にこれほど趣味や得意なことを持った人がいたんだな、と気づきました。

西村さん(以下、[村])：息子も読書感想文を出展しました。学校の代表4人に選ばれたんですが、賞はもらえなかったこともあって、頑張っても家の中だけで終わってしまう。でも展示して、地域の方に読んでもらって、「よかったよ」という声が聞けたことが嬉しかったです。子どものモチベーションにも繋がっているの、今年も何か考えて、展示したいと思っています。

今まで町内の掃除には参加していませんでしたが、展示会で地域の方とのつながりができて、「俺も掃除行きたい」と言いました。息子の中で、地域との関わり方が変わっているのだと思います。



月1回の「定例」にして、 集まれる回数を増やす

赤：楽田地区の協議体に、毎回参加していたつながりがあったので、展示会は近隣の町内からも参加がありました。展示会は年1回ですが、モルックは月1回にして、定着させようと思っています。

松：協議体でのつながりから、他の町内会でやっていたモルック会に見学に行ったのがきっかけでした。まだ町内会以外の人参加はないですが、触れ合う場を増やせればと思っています。



多世代で楽しめるモルック

ホームページで情報発信

尾：私の班では、ホームページでも回覧の情報流しています。回覧板を次に回してしまうと、忘れてしまうから、1からホームページを作りました。イノシシが出たとか、こういうイベントあるよ、といった情報を載せています。

赤：使い方分からない人もいるから紙と併用しています。

尾：でもやってみると、意外と80代の方も見てくれています。



加入を迷っている方へ

村：私は、町内会に入って悪いことは1つもないと思っています。知り合いが増えることで、見知らぬ人への警戒などもできて、防犯面ですごく安心して暮らしています。モルック会に参加してから、子供が町内の人とすれ違ったり挨拶して、親としても安心です。

尾：とにかく助け合いできて、情報が入って来ることです。町内会に入っていない人は良く知らないの、情報を流そうと思わないです。町内会の情報があることで助け合えるので、入ってほしいと思いますね。

松：高齢者で1人暮らしだと、町内会に入っていることで見守りになったりします。よく町内でも知らない人とか全然顔見ない人がいるケースがあります。近所の人を知るためにも、入ってもらった方がいいと思います。自分のためでもあると思いますね。

編集後記

地域の人の顔が見えづらくなり、「何をきっかけに集まれるか」を考え、集まる場を復活させた倉曾町内会。地域住民の強みや好きを活かしながら、活動されているのが印象的でした。この活動が継続されることで、顔の見える関係性ができ、住みやすい地域になっていくのだと改めて感じました。